

施策評価調書(27年度実績)

施策コード Ⅲ-1-(1)

政策体系	施策名	子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の推進	所管部局名	教育庁	長期総合計画頁	135
	政策名	生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造	関係部局名	教育庁		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	確かな学力の育成	豊かな心の育成	健康・体力づくりの推進	幼児教育の充実
取組No.	⑤	⑥	⑦	
取組項目	高校生の進学力・就職力の向上	特別支援教育の充実	時代の変化を見据えた教育の展開	

【Ⅱ. 目標指標】

指 標		関連する 取組No.	基準値		27年度			31年度	36年度	目標達成度(%)					
			年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125	
i	児童生徒の学力(知識・技能、全国平均以上の児童生徒の割合)(%)	小学校	①	H26	60.7	61.0	65.0	106.6%	63.0	65.0					
		中学校	①	H26	57.3	57.5	57.0	99.1%	59.0	61.0					
ii	児童生徒の学力(思考力・判断力・表現力等、全国平均以上の児童生徒の割合)(%)	小学校	①	H26	55.1	55.5	58.6	105.6%	58.0	61.0					
		中学校	①	H26	52.4	52.5	53.1	101.1%	54.0	56.0					
iii	児童生徒の体力(総合評価C以上の児童生徒の割合)(%)	小学校	③	H26	77.0	77.4	78.2	101.0%	79.0	81.0					
		中学校	③	H26	78.1	78.7	81.4	103.4%	81.0	84.0					
iv	未来を切り拓く意欲を持つ児童生徒の割合(%)	小学校	①②	H26	74.0	75.0	74.8	99.7%	80.0	85.0					
		中学校	①②	H26	65.7	66.0	66.6	100.9%	70.0	75.0					

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	達成	理 由 等	平均評価
i	達成	組織的な授業改善を進め、習熟の程度に応じた指導の充実等が図られたことにより、目標値を達成した。	達成
ii	達成	組織的な授業改善を進め、学びに向かう力を育成する教育活動の充実や思考力・判断力・表現力を育成する授業の充実等が図られたことにより、目標値を達成した。	
iii	達成	体育専科教員の活用や一校一実践の取り組みが定着し、小・中学校ともに体力が向上したことにより、目標値を達成した。	
iv	達成	生徒指導の三機能(自己決定の場、共感的な人間関係を育む場、自己存在感を感じる場の設定)を生かした指導により、物事に意欲的に取り組もうとする児童・生徒が増加し、目標値を達成した。	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・県調査の「授業が分かると感じている児童・生徒」の割合は年々増えており、小学校87.3%、中学校70.9%となった。 ・H27年度に策定した「県立学校授業改善実施要領」に基づき、全教科・全教員による授業改善の推進が図られた。 ・学年に応じた図書の提供に役立つ学校図書館支援コンテンツ(ブックリスト)を作成したことにより、各学校で図書の整備と学校図書館活用教育の促進が図られた。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の全体計画を教育課程に位置づけている学校の割合は、小・中学校ともに100%である。また、郷土の先人を素材にした道徳の教材を作成した。 ・高校生ビブリオバトル大会(発表37人、参加197人)の実施により、高校生の読書活動の活性化が図られた。また、県代表が全国大会で優勝する成果も得られた。 ・大分教育事務所管内の10小学校において郷土の歴史遺産や文化財を実際に見る・触れる体験活動を実施するとともに、新たに作成した小学生向け郷土史教材を授業等で活用することで、郷土の歴史や先人に対する興味・関心を喚起できた。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査(H27)」において、体力合計点による全国順位が、小5男子8位、小5女子10位、中2男子11位、中2女子23位と、いずれも過去最高の結果となった。 ・フッ化物洗口を導入する市町村が増加(3→5)した。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・小1プロブレム発生率が32.3%(H21)から14.2%(H27)と18.1ポイント減少し、調査開始から最も発生率が低くなった。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・難関校への進学を希望する生徒を対象に学校の垣根を越えたパワーアップセミナーを開催し、進学に向けた意欲の醸成及び学力向上が図られた。 ・インターンシップ等を通じて地域産業界との連携を強化し、職業系高校生に高い専門性を身につけさせるとともに、一人ひとりにきめ細やかな進路指導を行ったため、高い就職内定率が維持された。
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・一般就労を希望した生徒に占める就労率(希望達成率)がH26年度と比べ3.6ポイント上昇(70.1%→73.7%)した。
⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・「県立学校における政治的教養の教育に関する指針」を策定し、自立した主権者として必要な能力・態度を育成する主権者教育の推進が図られた。 ・授業におけるICT活用の出前研修を実施した結果、「ICTを活用して授業ができる教員の割合」が3.0ポイント上昇(73.5%→76.5%)した。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(27年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	28年度の方向性	
①	小学校学力向上対策支援事業	183,640	B	継続・見直し	183
	中学校学力向上対策支援事業	303,658	A	継続・見直し	184
	進学力パワーアップ事業	14,262	B	終了	186
	子ども科学体験推進事業	30,272	A	継続・見直し	188
	学校図書館活用教育支援事業	26,416	A	終了	189
②	おおいた子ども読書活動推進事業	9,492	A	終了	200
③	大分っ子体力向上推進事業	20,938	B	終了	190
	小・中学校フッ化物洗口推進事業	6,589	C	継続・見直し	191
⑤	高校生キャリア教育ステップアップ事業	13,724	A	終了	187
⑥	特別支援学校就労支援事業	31,115	B	継続・見直し	185

【VI. 施策に対する意見・提言】

○第二次大分県特別支援教育推進計画に関する第3回フォローアップ委員会(H27.7)
 ・一般就労を希望する生徒の職業能力を一層向上させ、希望に応じた進路達成を図るためには、他県の特別支援学校の取り組みを参考とした対策が必要である。

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では「新大分スタンダード」に基づく授業のさらなる充実と質の向上を図る。中学校では「中学校学力向上対策3つの提言」を推進し、学力と意欲の向上を図る。 ・高大接続改革に向け、生徒の思考力・判断力・表現力を育成するため、「県立学校授業改善実施要領」を活用した授業改善を引き続き推進する。 ・O-Laboについては、新たに大学・企業等を会場とした講座も実施することにより、中学生の参加拡大を図る。 ・不読率の高い中学生における読書活動を活性化するため、ビブリオバトル大会の対象を中学生まで拡大する。 ・子どもたちが郷土の先人や歴史・文化等について現地学習や教材学習を通し意欲的に学ぶことで、郷土を愛する心と自信・誇りを持つことができ、また、郷土史教材により近隣市町村や県内エリアについて学ぶことで、幅広い視野から「ふるさと」を考えることができるよう、市町村との連携を強化し、指導の充実を図る。 ・「学校におけるフッ化物洗口導入の手引き」等を活用し、未実施市町へのフッ化物洗口導入を推進する。 ・幼児教育から小学校教育への円滑な接続と相互の教育の充実のため、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校の共同研修会開催等による、職員の資質向上を図る。 ・地域産業界との連携により、職業系高校生の高度な専門性習得に向けた取り組みを推進し、景気の波に左右されない高い就職内定率の維持を図る。 ・小・中学校等におけるインクルーシブ教育システム推進のため、合理的配慮に関する指導・助言を行う「専門家チーム相談会」を開催するとともに、合理的配慮の普及啓発を図るため、保護者や小中学校等の教員を対象とした「合理的配慮申出に関する説明会」を開催する。また、進学・進級時も継続的に合理的配慮を受けられるよう、個別の指導計画等や、引継手法について研究を行う。 ・自立した主権者として必要な能力・態度を育成するため、「県立学校における政治的教養の教育に関する指針」に基づく主権者教育を引き続き推進する。